

第5回 沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会

日時：2026年3月4日（水）10:00～12:00

場所：沖縄こどもの国 チルドレンズセンター 2階

次 第

1. 開会

2. 報告

1) 前回議事要旨について

2) 空地及びまちなか交流拠点の活用について

3) 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案）に関するパブリックコメントの結果について

3. 議事

1) 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画の策定について

4. 閉会

○配布資料

- ・ 前回議事要旨 資料1
- ・ 空地及びまちなか交流拠点の活用（素案） 資料2
- ・ 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案）に関するパブリックコメントの結果の公表 資料3
- ・ 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案） 資料4
- ・ 沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会設置要綱 参考資料1
- ・ 第3回地域デザイン部会議事要旨 参考資料2

第4回 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画検討委員会

日時：令和8年1月27日（火）10：00～12：00

場所：沖縄商工会議所ホール

1. 開会
2. 報告 1) 前回議事要旨

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事要旨についてご意見あるか。 	(一同) ・ 異議なし。

報告 2) 令和7年度取組内容について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
胡屋 大通り会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間バスの無料実証実験の結果が出ているため、バス事業者の感想を伺いたい。 	(バス協会) <ul style="list-style-type: none"> ・ バス事業者が実施する場合、有料により乗車率の低下が予測される。また、沖縄市を23時発とする場合、労働時間の課題が生じるため、バス事業者主体での実施は難しいと思う。
沖縄市 観光物産 振興協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間運行の空港リムジンバスについて検討しているか。 ・ ターミナル構築において、使い方などの詳細がまとまっていない印象がある。観光客、沖縄市の地域住民、沖縄県民の視点も考慮して頂きたい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間バスの実証実験は、沖縄市の夜を楽しむことを目的とし、都市間移動手段のニーズを確認するためのもの。空港リムジンバスについては、バス事業者の意見もあるので引き続き可能性を検討していきたい。 ・ 交通結節点(ターミナル)の詳細説明については、次の基本計画をご覧いただき、さらなる意見を伺いたい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
琉球大学 工学部 工学科	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 住民意向調査では「駐車場が足りない」という指摘がある一方、駐車場機能の検討では「空車がある」という結果が出ており、両者の相違から実態の確認が必要と思う。利用者が目的場所の近くに駐車したいというニーズが原因で「不足」と感じる可能性があり、検討範囲を 300m 圏内ではなく 50m 圏内などに狭めて議論すべきではないか。 ▪ 満空情報を提供することで、解決できる可能性もある。イベントごとに駐車場の満車度を調査し、地域全体として満車になっているのか、それとも駐車場のバランスが悪いのかを検討してはどうか。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ▪ ご指摘を踏まえ、実態をより正確に把握するよう、今後、調査結果の再分析等を検討したい。 ▪ 既存の駐車場システムで満空情報等の提供について関係部局と調整していく。
センター 自治会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 空き地増加に伴う雑草管理の問題が発生する。活用例として、定期的または恒久的なイベントを実施し、空き地を感じさせないまちづくりを推進してほしい。 ▪ 地域住民と共にワークショップなどを通じて、空き地の利用方法を検討して頂きたい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ▪ 空き地の利活用について、地域住民と共に活用することを前提とした実証実験を本年度実施しており、次年度以降も継続予定である。地域の意見を聞き、住民を交えながら可能な活用策を共に検討していく。
ハイヤー・ タクシー 協会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 夜間バス実証実験の利用状況を踏まえ、路線バスの運行終了後にエリアを限定したデマンド型交通の活用についても検討いただければと思う。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ▪ —

3. 議事 1) 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案）について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
琉球バス交通	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 沖縄市は中南部の拠点としての意識が強いが、中北部との交通拠点としても機能しており、うるま市や北部（やんばる地域）との連携も強化する検討が必要ではないか。 ▪ 県総合交通体系基本計画との整合を図りながら進めていただきたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 県総合交通体系基本計画では、北部-中部-南部の連携が位置づけられているため、これを意識しつつ検討を進めている。 ▪ 22 ページの図において、北部市町村等との結びつきを意識しているが、より分かりやすい表現に努める。
バス協会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ うるま市向けと那覇向けの整備を分離する案が、基本計画で位置づけられていることを了解した。 ▪ パークアベニューの二車線化計画が進められているが、これにより「緑の風景」が守ることができるのか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 道路課や周辺の通り会など関係者が、市民の意見を反映し、街路樹などの調整を行いながら後世まで続くように整備を進めていく。
沖縄市観光物産振興協会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 東南植物楽園との連携により、緑の保全策を検討中であると聞いている。 ▪ 沖縄市の総合計画にまちづくりの部分があるので参考にしてほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 本市の総合計画を踏襲しながら進めていく。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
<p>ハイヤー・タクシー協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 高齢者などに配慮したユニバーサルデザインや配車アプリ対応の乗降場が必要ではないか。 ▪ 災害時の帰宅困難者への、タクシー利用についても考慮いただきたい。 ▪ タクシー利用のイメージがあれば教えてほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 交通機能として多様な移動手段として検討している。 ▪ 帰宅困難者や周辺地域の方々の災害時の一時滞在する防災機能を考えている。 ▪ 沖縄市のイメージ図では、44ページ左図でタクシー乗降場をイメージしている。
<p>埼玉大学 大学院 理工学 研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 県の計画において、都市拠点としての位置付けが次第に明確になってきており、広域都市拠点の役割について県をはじめ、関係者間で十分に議論しながら、導入する機能などを検討していただきたい。 ▪ 地区内拠点の役割として、市役所の関係部局と連携し、公共施設の誘導を検討してほしい。公共施設総合管理計画や立地適正化計画の検討の中で、交通結節点にどのような機能を誘導するか、施設の更新・統廃合と併せて検討して頂きたい。 ▪ 交通結節点の具体的な整備において、歩行者動線を意識して検討してほしい。バス動線の議論は進展していると見られるが、安全面や円滑な歩行者動線になっているのか、まちづくり側では周辺市街地との回遊性をどう高めるのかを検討して頂きたい。 ▪ 市街地と一体となった交通結節点は全国でも珍しいケースであり、整備後も地域で運営していくことも含め計画してほしい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 広域的な視点については、関係者で議論しながら、整理していきたい。 ▪ 公共施設の誘導などについては、令和9年度に予定している立地適正化計画との整合を図りながら、可能性を庁内で検討していきたい。 ▪ 歩行者動線についてはエリア内の移動状況を継続的に調査しつつ、施設など配置も歩行者動線も意識しながら関係者と共に検討していく。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
琉球大学 工学部 工学科	<ul style="list-style-type: none"> デザインコードは、1と2は静的なイメージとして、3と4は動的な印象を受ける。今後のまちづくりとしては、1、2の色が強い一方で、3、4は何かを作るというよりは、空間の遊びのような余地を確保していく要素だと思うので、もう少し賑わいに関連する記述が必要ではないかと感じる。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> デザインコード1と2では空間を意識したアプローチを、3と4では賑わいに関連する記述とともに、空間に活用する視点を追加する。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 「拠点性」をもたせることが重要。両側を広場のようなデッキで繋ぐとか、周辺の駐車場を地下や国道下などへ集約するとか、このまちに拠点ができると来訪者の回遊にも繋がるのではないかと。県の中南部都市圏や北部圏域も対象とした交通施策と整合を図りながら、この地区の拠点性を高めていくことが大切だと考える。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ご指摘の広域的な視点も踏まえて、拠点性を高めていきたい。
琉球大学 工学部 工学科	<ul style="list-style-type: none"> コザ運動公園は、自動車優先の公園の印象があるが、今後の改修計画などあれば、この会でも共有してほしい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> 担当部署と調整のうえ、情報提供したい。
沖縄市 観光物産 振興協会	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄市内(宿泊観光客を含む)では、北部地域の美ら海水族館やジャングリアへのアクセス改善を求める声があり、逆に北部地域からも沖縄市内のキングス観戦のための交通手段を望む意見が寄せられている。乗継なしで利用可能な路線バスや高速バスの導入を検討して頂きたい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> 本計画では北部地域との接続も想定しており、高速バス停との連携も含め考えていきたい。

第5回 沖繩市交通拠点まちづくり検討委員会

空地及びまちなか交流拠点の活用
(素案)

令和8年3月4日 (水)

沖繩市 建設部 都市整備室 都市交通担当

1. 空地の活用の課題
2. まちなか交流拠点の課題
3. 次年度の方向性（案）

(1) 空地を活用した広場の実証実験

(目的)

- 既存建物等の除却により生じる空地を資源と捉え、有効活用することで、まちの活性化に資する使い方の検討をおこなう。
- 広場空間の創出や広場を活用したまちの魅力向上の取り組みが地元へ根付き、民間による自発的・積極的な関わりと行政によるバックアップの構築を促す。

- 胡屋北交差点改良事業の進捗に伴う空地などを活用し、当該**エリアに必要とされる必要機能**の一つである**広場の在り方について実証実験をおこなった。**
- **休日昼間の賑わい創出**などの観点から、**2ケースの実証実験とした**
- **アクセス性・回遊性向上**などの観点から、「**空地を活用した広場の実験**」「**まちなか交流拠点**」、及び**周辺を巡るスタンプラリー**を併せて実施した

ケース1：令和7年11月22日（土）

広場実証実験+スタンプラリー+地域イベント

(地域イベント：ミュージックマルシェ+沖縄国際カーニバル)

ケース2：令和7年11月23日（日）

広場実証実験+スタンプラリー

その他：まちなか交流拠点

産学民の連携によるパネル展示を実施

※実験場所は道路拡幅事業用地と残地（地権者の了承済み）を利用し実施した。

※当該箇所での「空地」とは、国道330号胡屋北交差点改良事業において取得した南部国道事務所が所有する工事未着手の用地を指す



(1) 空地を活用した広場の実証実験

(実施内容)

- 空き地では、飲食・物販・体験ブースを7店舗出店し、BGMでの賑わい創出と、掲示パネルを設置した。

(効果検証)

- 来街者・運営協力者、出展者等へのアンケート等により、地域に空き地の活用を定着するための課題と、実証実験の効果を検証した。

ケース1：令和7年11月22日 参加者 115人 ケース2：令和7年11月23日 参加者 54人



空き地の利活用



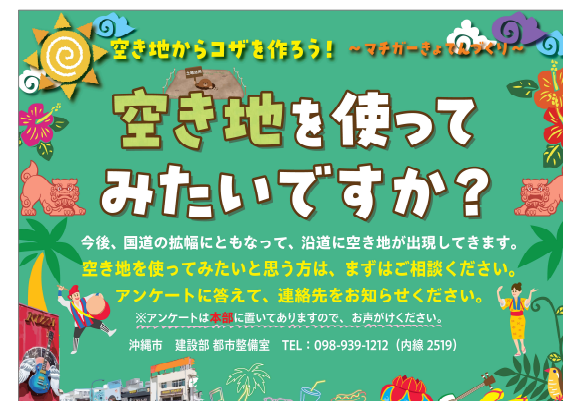
スタンプラリー



チラシ



スタンプラリー台紙/A4



掲示用パネル
(空き地を使ってみたいですか?)

(2) 実証実験の結果と空地活用の課題

- 昨年11月22・23日に市主催で空地を活用した実証実験を行い、70%以上の好評、コンテンツの効果の確認ができた(課題)
- 今後の課題は、使い方よりも、使いたい人が使いたいときに使いたいように使えるようにする仕組み・体制づくり

Q満足度を教えてください(ひとつに○)
 とても満足/やや満足/やや不満/とても不満/その他()

■実証実験の満足度

70%以上 |

とても満足 or やや満足

■実証実験の良かったもの

飲食・物販
 滞在・滞留空間 ▶ **空地活用**

スタンプラリー ▶ **回遊促進**

空地の使い方は少しは見えた

■今後の主な課題

1

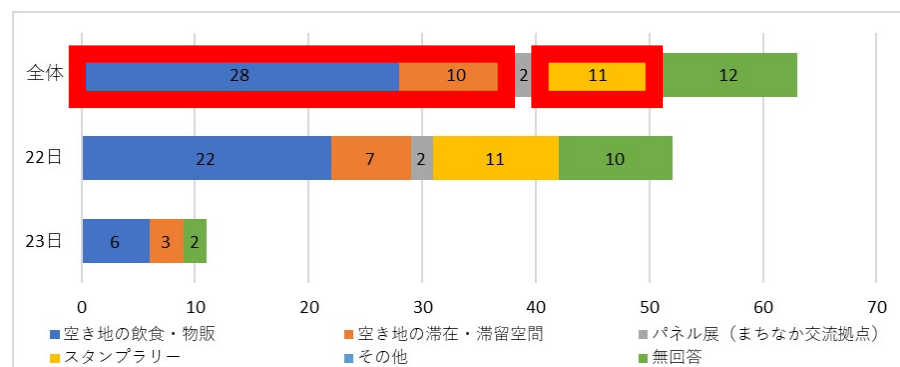
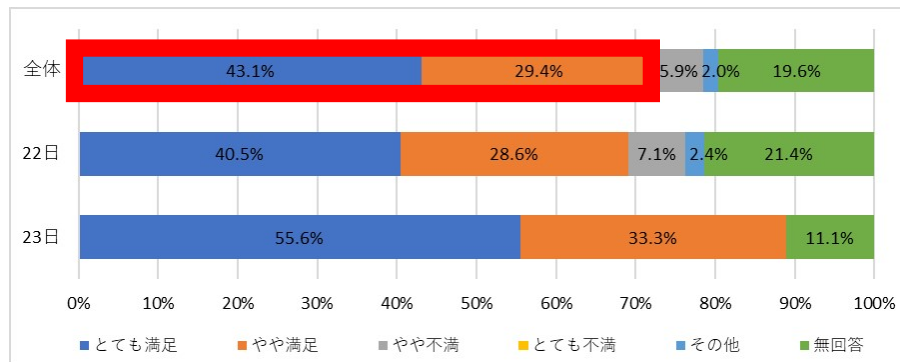
どうしたら
 使えるかが
 分からない

空地进行
 活用するための
仕組みの構築

2

どうしたら実施まで
 持っていけるか
 分からない

使いたい人を
 サポートする
体制の構築



※参加者169名中にアンケートの回答数は51名

2. まちなか交流拠点の課題

(1) 現在のまちなか交流拠点の概要

- 沖繩市のまちなか交流拠点は、1番街商店街のワンルームオフィス(約37㎡)を活用し、令和8年1月15日から3月15日まで金曜日の午後13時から16時に有人運営で開設。展示パネルや模型、QRアンケートを配置し、机・椅子で立ち寄りやすく工夫。備品はテーブル椅子・パラソル・ハンモック・人口芝を貸出可能。施設はエアコン、ミニキッチン・トイレを完備し、防犯対策も施されている

①施設概要

場所：沖繩市中央1丁目3番7号

間取り：ワンルームオフィス

面積：37㎡

天井高さ：2.5M

設備：エアコン・ミニキッチン・トイレ

防犯対策：出入口シャッター、トイレに防犯用格子



案内図

②運用概要

実施期間：令和8年1月15日～令和8年3月15日

開場時間：13時～16時

展示方法：展示パネル・模型・瓦版（QRアンケート）

立ち寄りやすい工夫：机・椅子

運営：有人運営

営業日は金曜、週1日半日、中央建設・沖繩市担当

備品貸出：テーブル5台、椅子10脚、パラソル3基、ハンモック2基、人口芝（幅1m、長さ10m）



瓦版（QRアンケート）



拠点の机と椅子



備品のパラソルと芝

2. まちなか交流拠点の課題

(2) 関係団体等のヒアリング結果

ヒアリング一覧 (速報)

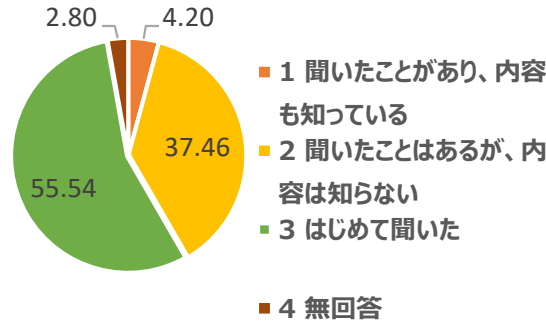
対象	実施時期	備考
コザまち社中	令和6年11月 6日	<p>組織：沖縄商工会議所連携、NPO事務局。</p> <p><u>考え方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • まちのサポート役であり、本来は若手組織が中心としたい • 地域活性化には、台湾との交流事業や地域を活かした取組みが必要で、イベントを展開し、観光客を呼び込む構想がある。 • 道路拡幅事業に伴う地域への影響、空き店舗の活用、キッチンカーのレンタル事業等、空き店舗を活用するリノベーション事業やサブリース事業の構想がある。
Signals センター自治会 一番街商店街青年会	令和6年12月 1日	<p><u>空き地の維持管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 草刈りや夜間照明など、メンテナンス体制が必要。 • 地権者との協力体制や商店街として、どう関わるか。 <p><u>まちづくりの会社について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • まちづくり団体になるには、NPO法人としての実績が必要と認識している <p><u>企画イベント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • まちなか拠点と連携して、民間主導でのイベントを実施したい。
一社みんなのももやま こども食堂	令和6年12月18日 令和8年 1月30日	<ul style="list-style-type: none"> • こどもが立ち寄れる場所が少なく、商店街がアーケード・多様な人々が行き交うなかで、まちで子供を育てる仕組みもできるのではないか。 • こども検討会を開催し、子どもが発表出来る機会をつくりたい。 • 「ももやま市民大学構想」があり、まちの方々が先生になり（例：飲食店の方を先生にし、調理などを教えて頂く）その場所で市民参加型の学びの会を開き人々との繋がりを広めていく。 • 「まちなか交流拠点の案内」をしても良い。（バスタ事業の内容説明や情報発信など説明）
TA PARTNERS (非営利団体支援・ 事業者支援)	令和8年 1月30日	<ul style="list-style-type: none"> • 北九州で門司港で税理士を営んでおり、沖縄市内の企業の税や事業者支援を担当。 • 1番街にあるコミュニティオフィスX-BORDER KOZAの運営母体の岡野バルブの社外取締役。 • 沖縄市内には3つのグループ「IT、職人、芸術系（ダンサー、スケボー、アート）」があり、人を組み合わせる事で、新たなものが生まれる。→次回、紹介頂く • 北九州の港湾で、壁画アート作品があり、市の緩和規制で実現している。壁画アートを手掛けている方と紹介できる。

2. まちなか交流拠点の課題

- まちなか交流拠点の実証実験、地域で活動する方々の意見、県外事例に加えて、「胡屋のまちにバスターミナル!? 交通拠点整備基本構想について学ぼう!!」と題して交通拠点整備基本構想の概要説明や市内散策を含めた、市主催の青年フォーラムで実施されたアンケート調査（対象者：沖縄市在住・在勤・在学の10～30代、72人）を踏まえると、今後の課題として、情報発信、空間の構築、体制の構築があげられる

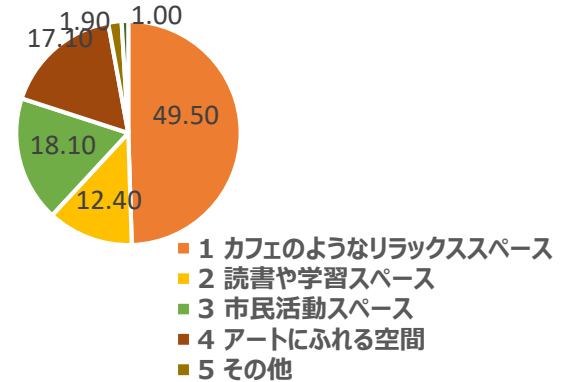
■ 沖縄市の交通拠点づくりを知っていましたか。

55% | はじめて聞いた
37% | 聞いたことはあるが内容は知らない



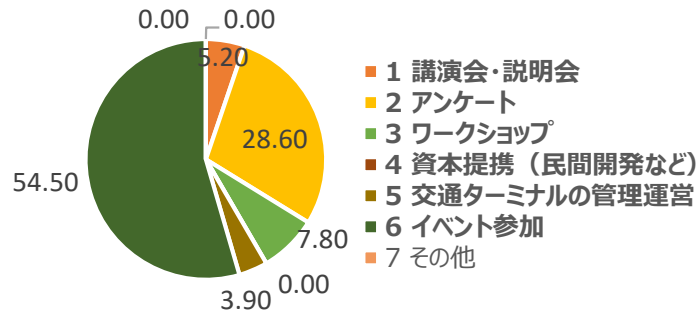
■ まちなか交流拠点に気軽に立ち寄るなら、どのような施設が理想ですか

49% | カフェのようなリラックススペース
18% | 市民活動スペース



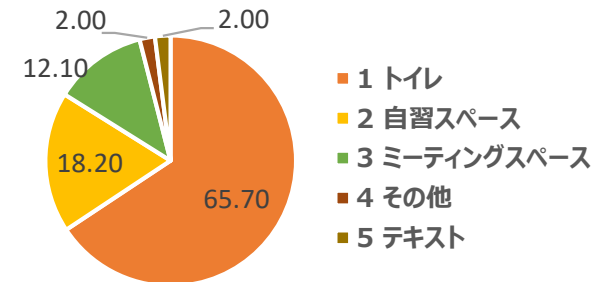
■ 沖縄市の交通拠点づくりの取組みに参加したい項目を教えてください。

54% | イベント参加



■ まちなか交流拠点にあるとよいものは何ですか。

65% | トイレ
18% | 自習スペース



■ 今後の主な課題

1 まちづくりを知りたい

まちづくりが身近に感じられる
情報発信

2 まちづくりを聞きたい

気軽に寄れる
空間の構築

3 まちづくりに参加したい

活動したい人をサポートする
体制の構築

2. まちなか交流拠点の課題

(3) 県外等の事例

1) アーバンデザインセンター

- 都市は、多様な人々が集い、生活を営む場であり、歴史的な要素が積み重なる複雑な存在。この捉えどころのない都市に対して、空間を起点にアプローチし、その創出・改善・保全を図る技術的な活動がアーバンデザインです。アーバンデザインセンター（UDC）は、「センター方式」のアーバンデザインを体現し、行政・民間・学術機関など様々な主体が参加できる「開かれた場」を提供することで、協働的なまちづくりを推進する趣旨で設立される。
出典：書籍 アーバンデザインセンター開かれたまちづくりの場

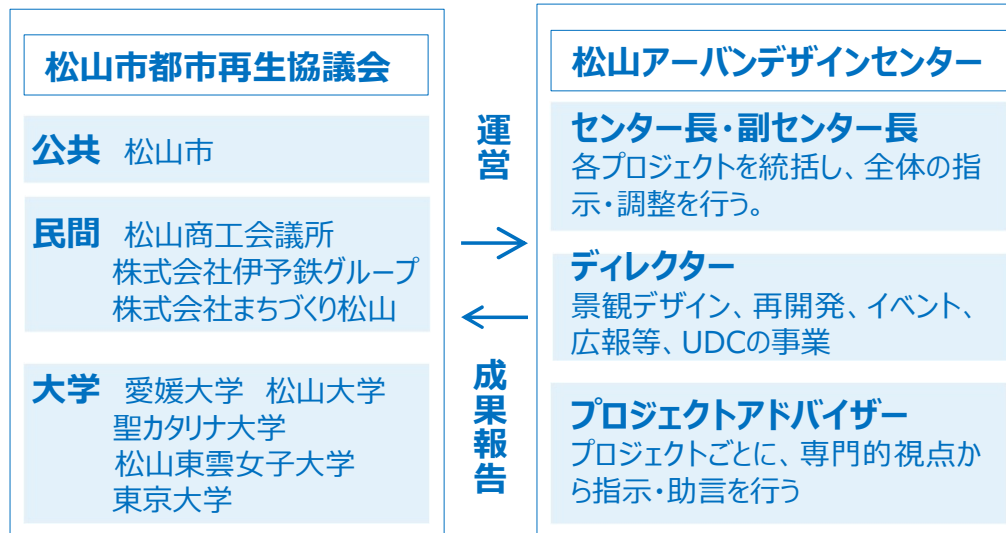
① 松山アーバンデザインセンター（UDCM）

[設立] 2014年4月

[対象] 愛媛県松山市

[概要] 松山市、地元企業、大学が連携。未来志向のまちづくりと歴史・文化の継承を柱とし、景観ガイドライン策定、公共空間活用を推進。「もぶるラウンジ」を拠点に、ワークショップやイベントを実施し、市民参加型のまちづくりを実現。

[仕組]



拠点施設「もぶるラウンジ」

[利用時間] 平日 10時～19時 土日 10時～17時
休み 祝日・お盆・年末年始 他

[設備] 多目的スペース、ライブラリー、CityScope、ピクチャーレール、トイレなど

[通常利用] 備えつけの図書、掲示物、掲示物の閲覧、トイレや一時的な休憩・飲食物の持込み及び飲食

[専用利用] 会議、各種教室、催し物(イベント・展示会)

2. まちなか交流拠点の課題

(3) 県外等の事例

1) アーバンデザインセンター

② 浜通り地域デザインセンターなみえ

[設立] 2022年5月

[対象] 福島県浪江町・浜通り地域

[概要] 東日本大震災後の福島県浜通り地域(沿岸部)の復興を支援し、持続可能なまちづくりを推進することを目的とする。地域住民の拠点、研究拠点、情報拠点として機能し、産官学民の連携の促進。

[組織] 東京大学・日産自動車・NEXCO東日本
3社共同運営

[設立目的と活動方針]

産官学連携による福島沿岸地域デザイン研究体を設立することで、福島沿岸地域で地域に根付いたカーボンニュートルな地域復興と新たなモビリティシステムの実践研究を後押し、活動を通じた人材育成。



拠点施設「浜通り地域デザインセンターなみえ」

[利用時間] 月-土 10時～17時

[設 備] 地域情報スペース、本棚、ウォーターサーバー
電気自動車から建屋に給電する機能

[利 用] 勉強・コワーキングスペース、読書、休憩・待ち合わせ、コミュニティ活動

2. まちなか交流拠点の課題

(3) 県外等の事例

1) アーバンデザインセンター

③ アーバンデザインセンター坂井

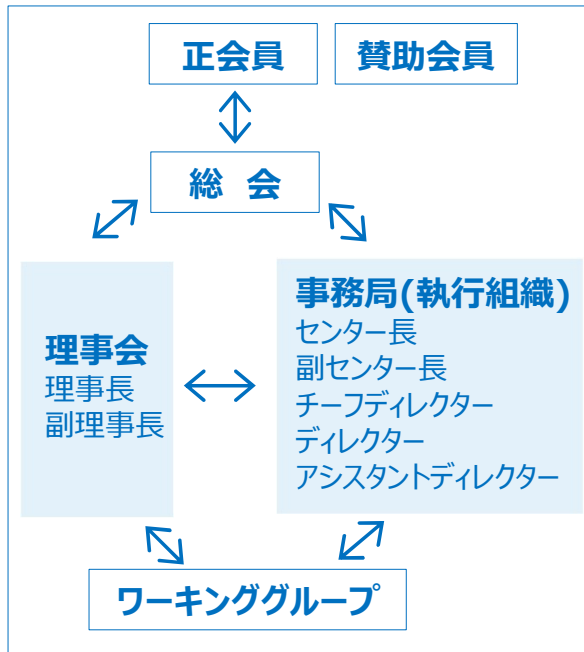
[設立] 2018年4月

[対象] 福井県坂井市
(特に旧市街地を重点地区に位置づけ)

[概要] 公・民・学連携のまちづくりプラットフォーム。

歴史的な北前船の寄港地として繁栄した湊町である三国町の空き家・空き地増加や人口減少などの地域課題解決を目指している。

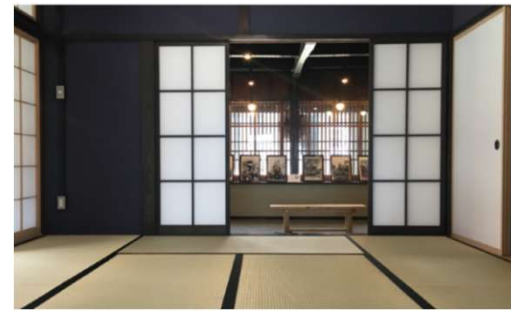
[組織図]



公 坂井市、坂井市商工会、みくに地区まちづくり協議会、三国祭保存振興会、(一社)DMOさかい観光局

民 地元住民、区長会、リコージャパン(株)、(株)福井銀行、福井信用金庫、(株)福邦銀行、えちぜん鉄道(株)、京福バス(株)、(株)PTP、(一社)三國會所

学 東京大学、東京都市大学、横浜国立大学、福井大学、福井工業大学



拠点施設「アーバンデザインセンター坂井」

築約100年の町家(通称「雪乃井」)を改修。「かぐら建て」と呼ばれるこの地域独特の建築様式の建物

[利用時間] 本館 9時～18時
年末年始休み
裏蔵(くららぼん) 9時～17時 木曜休み
年末年始休み

[設 備] 本館 WiFi、プリンター、プロジェクター
コーヒーマシンあり(有料)
裏蔵(くららぼん) コミュニティキッチンを備えた一棟貸し施設。Wifi・空調

2. まちなか交流拠点の課題

(3) 県外等の事例

2) エリアプラットフォーム

- 「官民連携まちなか再生推進事業」の概念で、行政、企業、住民、専門家などが集まる協議の場や組織体を指す。プラットフォームは、特定の地域（エリア）のまちづくりや活性化を目指し、将来ビジョンのさくтей課題解決に向けた議論・取組を官民一体で行うことを目的としている。

① 名古屋錦町（錦二丁目エリアプラットフォーム：N2/LAB）

[設立] 2020年7月

[対象] 愛知県名古屋市中区錦町二丁目

[概要] エリアプラットフォーム。企業、行政、大学など多様な主体が連携し、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想・研究・共創を進める実験場として機能する。

[経緯]

2004年 名古屋・錦二丁目まちづくり協議会
(旧:名古屋・錦二丁目まちづくり連絡協議会)

2011年 錦二丁目まちづくり構想・総合計画2030
(マスタープラン)策定

2017年 「錦二丁目エリアマネジメント株式会社」設立

2021年 会社は名古屋市から都市再生推進法人に指定

2020年 「官民連携まちなか再生推進事業」を活用した、
「錦二丁目エリアプラットフォーム(N2/LAB)」設立

[運営体制:錦2丁目 エリアプラットフォーム N2/LAB]

錦2丁目 エリアプラットフォーム

地域会員

名古屋市
錦二丁目エリアマネジメント(株)
一社)錦二丁目まち発展機構

- ・地区の地縁組織及び行政を中心に構成
- ・地域のまちづくり推進や合意形成を担う

事業会員

主に地区内外の企業や個人事業主等により構成
錦二丁目地区をフィールドとした地区課題解決やサービス向上につながる各種事業の情報提供、調査研究、実証事業、事業実装を運営事務局と共同で実施

連携会員

愛知県(スタートアップ推進課)
独立行政法人都市再生機構
名古屋商工会議所
なごのキャンパス
(NPO)都市の木質化

行政機関や大学、非営利組織などにより構成。錦二丁目地区をフィールドとしたイベントやプログラム、広報に関する実施、提供、協力。
相互の有するネットワークや情報の保管や共有の実施

運営委員会(運営事務局)

N2/LABの運営及び本組織の庶務を担うほか、各プロジェクト推進の支援、必要な産学官・地域の交流・連携事業等を実施

2. まちなか交流拠点の課題

(3) 県外等の事例

3) 商店街運営主体によるまちづくり

- 商店街運営主体によるまちづくりとは、商店街の振興組合や関連する地域団体が、単なる商業活性化にとどまらず、地域全体の魅力向上や持続発展を目指す取り組みを指す。これは、単なる商業振興にとどまらず、買い物しやすい・住みやすい地域づくりを推進するもので、経済循環の創出や社会課題の解決を目的とする。

① 名古屋市円頓寺商店街（空き家・空き店舗活用による活性化事例）

主な運営主体

那古野下町衆（なごやしたまちしゅう）：任意団体

[設立] 2007年3月

[対象] 愛知県名古屋市
円頓寺商店街・円頓寺本町商店街とその界隈

[概要] 店主を中心に、コンサルタント、大学研究室、建築家、企業、クリエイターら地域を愛するメンバーで、イベントの企画運営や誘致、防災、商店街活動、マップの作成、空き店舗対策などを実施している。

[構成]

- ・円頓寺・円頓寺本町商店街とその界隈の店主
- ・大学：名古屋工業大学
- ・企業：アルカダッシュ(株)、市原設計(株)、斎藤正吉建築研究所、(株)都市研究所スペース、名鉄INN、名鉄不動産

主な運営主体

株式会社ナゴノダナバンク：法人

[設立] 2018年3月
那古野下町衆の空き店舗対策チームから発展し設立

[概要] 空き家活用、イベント運営、地域のまちづくり支援を専門とし、円頓寺の再生をリードしている。

[構成] ・市原正人：1級建築士
愛知淑徳大学 建築学部 教授 /市原設計(株)代表
・藤田まや：宅地建物取引士



まちコーディネーター養成講座



空き店舗再生プロジェクト

3.次年度の方向性（案）

1-1：空地を活用するための仕組みの構築

▶ **方向性：空地活用のルールと流れの明確化**

- ・ 市：空地を使うためのガイドライン（手順書・説明書）、申請書等の作成、地域への一定程度の支援の検討等
- ・ 地域：使いたい人をサポートするチームづくり・窓口の設置等

■ 来年度の取組（案）

- 市 |
- ・ **ガイドライン**（空地の使い方の手順書・説明書）
 - ・ **申請書（案）作成・関係機関との調整**

- ・ **地域への一定程度の支援**（実験やサポートチームづくりの支援）

- 地域 |
- ・ **自ら空地活用実験の実施**（空地活用の一連の手順を知るため）

- ・ **サポートチームづくり**
（地域内の主要関係者を集め、サポート体制構築に向けた必要事項の洗い出し、担当・窓口決め等）

- ▼
- ・ **多様な主体による空地活用と支援を実施**

3.次年度の方向性（案）

1-2：使いたい人をサポートする体制の構築

▶ 方向性：担い手を支える伴走支援の仕組みづくり

- 空地活用をテーマに、使いたい人や活動したい人をサポートできる体制構築を目指す
- 関係者それぞれが、メリットと得られる仕組みを目指す
- 大学・地域・行政の緩やかな連携体制構築

■空地活用のフロー



■主な役割（案）

	使いたい人	市	地権者 (国)	地権者 (民間)	地域等	備考
1	○					
2	○	△				・使いたい人が市に相談 ・市が使いたい人に手続き等の伝達・地域の紹介
3	○				△	・使いたい人は地域の窓口相談 ・地域は手続きのサポート・人の紹介等
4	△	○	△	△	△	・市が地権者（国・民間）と空地利用許可の調整
5	○	△			△	・地域・市が使いたい人の告知等のサポート
6	○				△	・地域が備品の貸し出し等のサポート ・使いたい人は空き地の草刈り等も含め準備 （地域の景観向上・地権者の管理軽減）
7	○					
8	○					・使いたい人はゴミ等の片付け （地域の景観向上・地権者の管理軽減）
9	○	△	△	△	△	・使いたい人は集客の多い時間帯、総売上等を簡単に市・地域に報告。地権者に報告することで、空地活用のアイデア・可能性の共有 ・民間地権者や地域は空地活用のメリット・手法蓄積 ・市や国は交通結節点の将来的な機能・空間検討にアイデア等を活用

3.次年度の方向性（案）

2-1：まちづくりが身近に感じられる情報発信

▶ **方向性：まちづくりの見える化と参加の入口づくり**

- ・ 計画・検討状況の分かりやすい展示
- ・ 活動紹介・成果共有
- ・ 「知る→関わる」につながる導線設計

2-2：気軽に立ち寄れる空間の構築

▶ **方向性：日常に開かれた“居場所”の質の向上**

- ・ 滞在しやすい設え
- ・ 無人でも安心できる空間運用
- ・ 小さな活動が生まれる余白づくり

2-3：活動したい人をサポートする体制の構築

▶ **方向性：地域と関わり合いながら、新たな価値や営みを共創する**

- ・ 身近なまちづくり活動の誘導
- ・ コミュニティ形成の支援
- ・ 地域の多様な活動（空地等との連携）への創出支援
- ・ 地域の主体性を支える体制等の仕組みづくり

空地と交流拠点の試行を重ねながら
仕組み・人・空間を同時に育てていく

3.次年度の方向性（案）

実践的なプログラムの構築

▶ 方向性：実践的なプログラムの構築

- 地域のニーズを活かした民間主導の活動の促進（地域イベント連携、子ども検討委員会、市民大学構想、壁画アート）
- 拠点の運用を拡張し、日常的な利用促進を図る。（拠点の運用ルールの変更、利用ガイドライン）
- 空地を活用する人へ使い方のガイダンス。

■ 来年度の取組（案）

地域のニーズを活かした 民間主導の活動の促進

- 地域イベント連携
- 子ども検討委員会
- 市民大学構想
- 壁画アート

拠点の運用を拡張し、 日常的な利用促進を図る

- 拠点の運用ルール
- 利用ガイドライン

空地を活用する人へ 使い方のガイダンス

① 仕組みの基盤を整える（空地活用の発展→使える状態をつくる）

- 利用ルール・申請フローの明確化・伴走支援体制の構築
- 小規模活用の継続実施と実績の蓄積・改善サイクルの確立

② 人の基盤を育てる（担い手・主体の可視化→主体が見える状態をつくる）

- 活動主体の見える化
- 地域・大学との連携の具体化
- 小さな活動の継続支援・信頼関係の蓄積

③ 空間の基盤を高める（交流拠点の再設計→立ち寄れる状態をつくる）

- まちづくりの見える化
- 参加の入口づくり
- 気軽に立ち寄れる滞在環境の向上
- 日常利用の促進

沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案）に関するパブリックコメントの結果

実施期間：令和8年1月28日から令和8年2月27日

意見者数：2名（3件）※うち、1名（2件）は本計画に関する内容ではないため対象外とする。

No.	該当頁	頂いたご意見	左記に対する市の考え方
1	P51	・ 胡屋地区指定駐車場1時間無料券の配布が今年度末で終了するという事で、近隣の店舗などはとても困っています。令和8年度の継続予定もないという事でしたので来年度にも類似の無料券の補助金の計画お願いできませんでしょうか？別な形でも継続して頂ければ幸いです。よろしくお願ひ致します。	・ 胡屋地区指定駐車場1時間無料券の配布について、実施事業者からは、次年度継続はないと聞いています。無料券の補助については、本計画の対象ではありませんが、交通拠点まちづくりにおいて、駐車場機能の必要性は示唆されており、本計画としては既存の駐車場の有効活用などに取組んでいく考えです。